

令和6年度

学生募集要項

(博士課程)

[一般選抜試験・社会人特別選抜試験・外国人留学生特別選抜試験]

令和6年度本研究科入学試験は、
前期を令和5年 8月22日に、
後期を令和6年 1月16日に
実施します。

<昼夜開講制導入大学院>

久留米大学大学院医学研究科

久留米大学大学院医学研究科 博士課程 概要

1 博士課程アドミッションポリシー

本研究科博士課程は、主に医学部・歯学部・獣医学部などの卒業者を対象としている。

医学の臨床、基礎の各分野で自立した研究者として先駆的な学術研究を推進する能力をもつ人材を育成するとともに、高度に専門的な医療業務に従事するために必要とされる幅広い学識、国際的視野並びに豊かな教養と人間性を備えた人材を育成することを目的としているので以下のような人材を求めます。

- 1) 本課程修了後に医療現場におけるスペシャリストとして、また、教育・研究の場で指導的立場として国際的な活躍を目指す人。
- 2) 医療・福祉系の大学院前期（修士）課程修了者や医療系の現場・大学・官公庁・企業などにおいて一定の研究経験を有する者、さらに、一定の条件を満たせば外国人留学生も歓迎する。
- 3) 医療・保健に従事している社会人（臨床研修医を含む）が、働きながらスキルアップを目指すべく、業務と学修の両立を目指す意欲ある者を歓迎する。

※ アドミッションポリシーとは「受験生に求める能力、適性等についての考え方をまとめた入学者受入方針」のことを指す。

久留米大学大学院医学研究科博士課程の教育・研究上の目標

久留米大学大学院は、学校教育法に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、文化の進展に寄与することを目的とする。

「久留米大学大学院学則第1章 総則 第1条 目的」より

久留米大学大学院医学研究科は、医学・医療の分野で先駆的な学術研究を推進するとともに、幅広い視野、高度の専門性と豊かな教養及び人間性を備え、国際的に活躍し、地域医療に貢献しうる優れた人材を育成することを目的とする。

本研究科博士課程は、医学・医療の各専攻分野において、自立した研究者として学術研究を推進する能力をもつ人材を育成するとともに、高度に専門的な医療業務に従事するために必要とされる幅広い学識、国際的視野並びに豊かな教養と人間性を備えた人材を育成することを目的とする。

「久留米大学大学院医学研究科規程第1章 医学研究科の目的 第1条」より

2 標準修業年限

博士課程 4年（特例として3年）

3 履修の方法

学生は、所定の期間内に指導教授の指示により、次に定める科目を含め31単位以上を取得しなければならない。単位取得の認定は、試験あるいは実習・実験報告によって行う。

専攻名	専攻科目	論文実習	共通科目
生理系 病理系 社会医学系 個別最適医療系	20単位以上（講義8単位、 実習12単位を含む）	5単位	6単位以上

専攻名	専攻科目	専攻科目 (必修)	コース科目 (必修)	論文実習	共通科目
個別最適医療系 先端癌治療学 「悪性腫瘍専門医養成ユニット」	化学・薬物療法専門医養成コース	12単位	講義8単位 実習12単位	5単位	6単位以上
	放射線療法専門医養成コース	4単位	講義4単位 実習16単位		
	希少がん診療養成コース	4単位	講義4単位 実習12単位		

※2つの研究分野から研究指導を受ける場合、専攻科目を分担できる。

なお、専攻科目の分担を希望する場合は、「論文実習」は9単位必要となる。

4 昼夜開講（教育方法の特例適用）による履修及び研究方法

1 趣旨・目的

社会人が最新の医学知識・技術を学び取り、高度の医学研究能力、臨床医能力を身につけその成果を社会に還元したいという声に応え、平成14年度から昼夜開講制を導入している。

昼夜開講制とは、夜間や特定の時間又は時期に授業・研究指導の時間を設け、現に実地診療に当たっている開業医や病院勤務医、医学及び関連分野の研究者等の社会人に大学院の授業、研究指導をより受け入れ易くする制度である。

[大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第14条に定める教育方法の特例を適用]

2 授業科目の開設方法

社会人への便宜を図るため、勤務態様等の特性に応じ、授業科目は第1～5時限の他に、第6時限（18:00～19:30）、第7時限（19:40～21:10）の授業を行う。

また、土曜日、日曜日、夏期休業期間中にも授業科目を開設する。

※本学医学研究科の学生はすべて昼夜開講制度の適用となる。

5 本学の特色ある大学院教育について

特に博士課程において近年取り組みを始めた教育内容について紹介する。

(1)「臨床研究主任研究者養成ユニット」の設置

現在多くの臨床試験が大学病院等で実施されているが、臨床試験に関わる医療従事者が必ずしも臨床試験に関して十分な知識を持ち理解しているとは言えない状況である。そこで、本学では「臨床試験の概要、チームワーク、GCP や臨床研究法などの法規制、生命科学・医学系研究に関する倫理指針、臨床試験の審査機構、医薬品開発と臨床試験の実際・留意点、医師主導治験、薬理作用と薬物動態、バイオ統計学、レギュラトリーサイエンス、ARO/臨床研究センター、医療訴訟」までを、国内一流の講師を招聘し、講義を開講している。

(2)「先端的・分野特異的研究手法体験ユニット」の設置

生理系講座を中心に、一般的実験のほかに各講座で特殊な装置を使用した特有の実験に横断的に参画することにより、基礎的教養を高め、幅広い実験手法とその意義を学ぶことを目的としたユニットが平成 19 年 4 月より開設されている。

(3) 社会医学系専攻「バイオ統計学」の開設

わが国における医学研究および医薬品開発研究などにおいて、バイオ統計学研究者の量的および質的不足は、学術研究のみならず広く産業界における国際競争力の不足に連なるきわめて重要な戦略的課題として、近年認識されている。このような現状に鑑み、本学では、大学院医学研究科博士課程社会医学系専攻の中に平成 17 年 4 月より「バイオ統計学群」を設け、国際的標準と見なされている米国に準じるバイオ統計研究体制の確立を図り、もって有能な人材の育成に資することを目的とする。

(4) 個別最適医療系先端癌治療学「悪性腫瘍専門医養成ユニット」の設置

がん治療研究の拠点形成を目指すべく個別最適医療系先端癌治療学を開設し、「癌集学的治療」について教授していたが、近年のがんによる死亡者が全体の 31.1%を占めるに至り、社会的にも癌専門医が熟望されるようになってきた。このような背景から、本学においても最新の基礎腫瘍学と臨床腫瘍学の両面を専門的に学習して新たな研究を推進することで医学博士としての学位を取得すると共に、臨床実習において固形腫瘍と造血器腫瘍のチーム医療に直接携わり習熟することでがん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会専門医）の受験資格を取得する悪性腫瘍専門医養成コースを平成 19 年度より開設した。平成 20 年度からは放射線腫瘍認定医を養成する放射線療法専門医養成コースを、平成 21 年度からは緩和医療専門医を養成する緩和医療専門医養成コースを新たに立ち上げ、いずれかを選択できる「悪性腫瘍専門医養成ユニット」としてスタートしている。令和 4 年度から緩和医療専門医養成コースは廃止する。

6 学位授与

本研究科に 4 年以上在学し、所定の単位を取得し、更に独創的な研究に基づく学位論文を提出してその審査及び学位論文を中心とした最終試験に合格した者に、博士（医学、医学バイオ統計学、看護学）の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、3 年以上在学し優れた研究業績を上げた者で所定の要件を満たした場合には、学位を授与することがある。

7 久留米大学リサーチ・アシスタント制度

所定の選考手続きを終了後、大学院医学研究科博士課程に在学する学生の中から選考の上、本学が行なう学術研究プロジェクトに研究補助者として従事させる制度を設けている。(支給額は学術研究プロジェクトごとに決定)

8 久留米大学学術奨励賞について

本学では、「優れた学位論文に対する表彰制度要項」に基づき、医学研究科博士課程学位取得者を対象に「学術奨励賞」を制定し、医学研究科委員会の審議及び承認を経て、表彰及び表彰金を贈呈する制度がある。

令和 6 年度
久留米大学大学院医学研究科学生募集要項
(博士課程)

1 募集人員

専攻	専攻科目	募集人員
生理系	解剖学 肉眼・臨床解剖分野 解剖学 顕微解剖・生体形成分野 生理学 脳機能分野 生理学 統合自律機能分野 医化学 薬理学 分子生命科学	4
病理系	病理学 感染医学 基礎感染医学分野 感染制御学 感染医学 真該微生物学分野 免疫学	3
社会医学系	環境医学 公衆衛生学 健康科学 法医学・人類遺伝学 バイオ統計学 看護学	8
個別最適医療系	先端癌治療学 心血管先端医療学 高次脳疾患学 皮膚細胞生物学 先進医療対象疾患学 先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット (化学・薬物療法専門医養成コース、放射線療法専門医養成コース、 希少がん診療養成コース)	20
計		35

※ 各専攻の募集人員内において、一般選抜枠のほかに社会人特別選抜枠及び外国人留学生選抜枠を若干名募集する。

2 出願資格

次のいずれかに該当する者。

〔A〕 一般選抜試験

- (1) 大学（医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学の学部）を卒業した者、または令和6年3月までに卒業見込みの者。
- (2) 外国において学校教育における18年の課程（最終の課程は医学、歯学、獣医学又は薬学）を修了した者、または令和6年3月までに修了見込みの者。
- (3) 文部科学大臣の指定した者（平成元年9月1日 文部省告示第118号）。
 - (イ) 旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学（医学又は歯学の学部）を卒業した者。
 - (ロ) 防衛庁設置法（昭和29年法律第164号）による防衛医科大学校を卒業した者。
 - (ハ) 修士課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者で、大学院において、大学の医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学の学部を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。
- (ニ) 大学（医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学を履修する課程を除く。）を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、※大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院医学研究科において当該研究の成果等により、大学の医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。
- (4) 本大学院医学研究科において、個別の入学資格審査により、大学（医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学の学部）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で24歳に達した者。

〔B〕 社会人特別選抜試験

社会人とは、入学時に官公庁、病院、診療所、企業等において、医師・歯科医師・獣医師・研究者等として既に就業している者、または入学直後に就業が見込まれ、入学後も引き続きその身分を有する者を示す。

- (1) 大学（医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学の学部）を卒業した者。
- (2) 外国において学校教育における18年の課程（最終の課程は医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学）を修了した者。
- (3) 文部科学大臣の指定した者（平成元年9月1日 文部省告示第118号）。
 - (イ) 旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学（医学又は歯学の学部）を卒業した者。
 - (ロ) 防衛庁設置法（昭和29年法律第164号）による防衛医科大学校を卒業した者。
 - (ハ) 修士課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者で、大学院において、大学の医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。
 - (ニ) 大学（医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学を履修する課程を除く。）を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、※大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院医学研究科において当該研究の成果等により、大学の医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。
- (4) 本大学院医学研究科において、個別の入学資格審査により、大学（医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学の学部）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で24歳に達した者。

〔C〕 外国人留学生特別選抜試験

- (1) 外国人留学生として、わが国の学校教育法第83条における大学（最終の課程は医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学）を卒業した者、または令和6年3月までに卒業見込みの者。
- (2) 外国において学校教育における18年の課程（最終の課程は医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学）を修了した者、または令和6年3月までに修了見込みの者。
- (3) 外国人留学生として、わが国の修士課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者で、大学院において、大学の医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、※大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院医学研究科において当該研究の成果等により、大学の医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。
- (5) 本大学院医学研究科において、個別の入学資格審査により、外国の大学の課程（医学、歯学、獣医学又は修業年限が6年の薬学の学部）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で24歳に達した者。

備考

1. 上記出願資格【A】－(3)(ハ)・(ニ)及び(4)、【B】－(3)(ハ)・(ニ)及び(4)、【C】－(3)・(4)・(5)に該当する者については「3 出願資格審査」を参照してください。
2. 上記出願資格【A】－(3)(ニ)、【B】－(3)(ニ)、【C】－(4)のうち「※大学、研究所等において2年以上研究に従事した者」の基準：
最終学歴以降の研究期間等が2年以上とする。なお、令和6年3月31日までの見込み期間に該当があれば計算に含めることができる。
*「研究機関等」に該当するもの
 - ①大学において研究生として在学した期間
 - ②大学・官公庁・会社等において教育又は研究部門で教育職・研究職に従事した期間
 - ③その他、上記①、②に準じた期間
3. 医(歯)学部医(歯)学科以外の大学を卒業した者は、原則として個別最適医療系を専攻することはできない。

3 出願資格審査

出願資格の【A】－(3)(ハ)・(ニ)及び(4)、【B】－(3)(ハ)・(ニ)及び(4)、【C】－(3)・(4)・(5)に該当する者については、事前に出願の資格審査を行うので、下記に定める期間に必要な書類をそろえて提出のこと。なお、提出前に希望する専攻科目指導教員に入学後の教育・研究について相談すること。

(1) 出願資格審査提出書類（数字を□で囲んだ書類は全員提出すること）

□1	出願資格認定申請書	本学所定の様式（様式6）
□2	研究業績報告書	本学所定の様式（様式7）
□3	卒業証明書 （大学その他各種学校等）	出身大学等の所定の用紙。ただし、本学卒業者は提出不要
□4	成績証明書 （大学その他各種学校等）	出身大学等の所定の用紙。ただし、本学卒業者は提出不要
5	修了（見込み）証明書	該当者のみ。ただし、本学修了（見込み）者は提出不要。（出身大学院の所定の用紙）
6	成績証明書（大学院）	該当者のみ。ただし、本学修了（見込み）者は提出不要。（出身大学院の所定の用紙）
7	研究期間証明書	該当者のみ。（2年以上の研究を有する証明書）

(2) 出願資格審査申請受付期間及び提出方法

前 期	令和5年6月12日（月）～ 令和5年6月16日（金）必着
後 期	令和5年11月13日（月）～ 令和5年11月17日（金）必着

注）出願資格審査受付期間外に提出された書類は受理しない。

※ 出願資格を認められた者には、出願資格認定通知書を交付する。出願資格認定通知書は次年度まで有効とする。

※ 郵送で提出する場合は書留郵便のみとする。封筒の表に「大学院医学研究科博士課程 出願資格審査 申請書類在中」と朱書きして提出のこと。

※ 受付時間は、土・日曜・祝日を除く9:00～17:00（12:00～13:00は除く）

※ 提出された書類は返却しない。

(3) 提出先 p9を参照

(4) 審査結果

審査結果は、出願期間前に本人に（郵送により）通知する。

※ 出願資格審査にて通過した者は、大学院医学研究科入学試験を受験することができる。

4 出願手続

出願にあたっては、事前に希望する専攻科目指導教授に入学後の教育・研究等について相談の上、下記書類を一括して提出すること。専攻科目分担を希望する場合も同様である。

*印：出願資格審査に通過した者が出願手続を行う場合、既に提出済の書類については省略できる。

入学願書	本研究科所定の用紙に記入のこと。(様式 1)
志願理由書	本研究科所定の用紙に従って、500 字以内で記入すること。(様式 2)
*調査書 (成績証明書)	出身大学の所定の用紙に当該大学(学部)長が証明し厳封したもの。 ただし、本学卒業〔見込み〕者は提出不要。
写真(2枚)	出願前3ヶ月以内に撮影の正面上半身脱帽(横4cm・縦5cm)のもの。 <u>1枚は入学願書に、1枚は受験票に貼付のこと。</u>
*卒業(見込み)証明書 (1通)	本学卒業〔見込み〕者は提出不要。 なお、外国において学校教育における18年の課程を修了した〔もしくは修了見込みの〕者は、このことを証明する〔もしくは見込みである旨の〕書類を提出すること。さらに、同者は <u>出身大学学長もしくは指導教官による推薦書(書式は任意)を併せて提出すること。</u>
受験票	本研究科所定の用紙に記入すること。(様式 3)
入学検定料	30,000 円(様式 4) 本学所定の振込用紙に必要事項を記入し、切り離さずに最寄の金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・農業協同組合)の窓口を検定料を添えて提出してください。(ゆうちょ銀行、コンビニエンスストア及びインターネットによる振込みはできません。)ひとたび納入された検定料は、理由の如何を問わず返還しない。 ※検定料振込明細書兼領収書の写しを提出すること。
受験承諾書	社会人特別選抜試験受験者のみ、勤務先等の所属長が作成し、提出すること。(様式 5)
医師・薬剤師免許証の写	医師・薬剤師免許証を取得している者は、その写しを提出すること。
看護系免許証の写	看護師・保健師・助産師免許証を取得している者は、その写しを提出すること。複数の免許証を取得している場合は、すべて提出すること。
出願資格認定通知書の写	出願資格認定通知書の交付を受けた者は、その写しを提出すること。
英語試験科目免除希望者	当該事項の証明書を提出すること。P10 参照
在留カード及びパスポートの写し ※外国人留学生特別選抜試験 受験者のみ	外国人留学生特別選抜受験者は、在留カード及びパスポートのコピーを提出すること。本邦外に居住する外国人で在留カードを所持していない場合は、パスポートのコピーのみ提出すること。
留学生調査書 ※外国人留学生特別選抜試験 受験者のみ	本研究科所定の用紙(別途配布)になるので、出願資格審査前までに医学部事務部教務課(連絡先別記)へ連絡すること。 注1: 外国語で作成された証明書等の種類には日本語訳を添付すること。 注2: 改姓等により証明書と氏名が異なる場合、戸籍抄本等証明可能な書類を提出すること。 注3: 経費支弁に係る証明書等を添付すること。

(出願手続きに関する留意事項)

※ 提出された書類は返却しない。

※ 出願後の入学願書等の記載事項の変更は認めない。また、出願書類に虚偽の記載、その他不正が判明した場合、出願資格を出願日に遡り喪失するとともに、入学後であっても入学許可を取り消すことがある。

5 出願受付期間及び提出先

(1) 出願期間

前 期	令和 5 年 7 月 18 日 (火) ~ 令和 5 年 7 月 21 日 (金) 必着
後 期	令和 5 年 12 月 18 日 (月) ~ 令和 5 年 12 月 22 日 (金) 必着

注) 出願受付期間外に提出された書類は受理しない。

※ 受付時間は、土・日曜・祝日を除く 9:00~17:00 (12:00~13:00 は除く)。

※ 郵送で提出する場合は書留郵便のみとする。封筒の表に「大学院医学研究科博士課程 出願申請書類在中」と朱書きして提出のこと。

(2) 入学願書提出先及び照会先

〒830-0011 久留米市旭町 67	
久留米大学大学院医学研究科入学試験係 (医学部事務部教務課内)	
TEL	0942 (31) 7528 (直通)
E-mail	igaku-kyomu@kurume-u.ac.jp
ホームページ	https://www.kurume-u.ac.jp/faculty/gmed/examination/

6 入学選抜方法 [一般選抜試験・社会人特別選抜試験・外国人留学生特別選抜試験]

(1) 入学者の選抜は、学力試験 (英語)、面接、及び調査書等を総合して判定する。

(2) 試験期日

前 期	令和 5 年 8 月 22 日 (火)
後 期	令和 6 年 1 月 16 日 (火)

※ 前期入試で合格しなかった場合、後期入試に出願することを妨げない。

(3) 試験科目及び場所

試験科目	時 間	場 所
英 語	11:00~12:00	本学教育 1 号館 5 階 1502 教室
面 接	13:00~	専攻科目指導教授室 (上記試験会場にて別途指示)

① 試験当日は、午前 10 時 30 分までに、試験場所に集合すること。

② 英語は、筆記試験を行う。(辞書持込み可、電子辞書持ち込み不可)

[英語試験科目免除条件]

次の条件①～④のいずれかを満たしている場合には英語試験を「免除」する。

該当者は受験願書とともに当該事項の証明書（写し可）を提出すること。

- ① TOEIC (Listening & Reading Test) : 800 点以上
- ② TOEFL : iBT 85 点以上 PBT 580 点以上
- ③ IELTS : 6.0 以上
- ④ 実用英語技能検定 : 準 1 級以上

※スコア有効期限については、受験年を含めて過去 4 年以内とする。

ただし、実用英語技能検定についてはその限りではない。

※英語試験科目を免除された場合、英語試験科目の点数は合格最低点とする。

尚、「英語試験」免除を申請している受験者は、希望により英語試験科目を受験できる。

その場合、高得点の方を受験者の英語科目の成績とする。

※上記を満たしていない外国人留学生特別選抜試験受験者は、一般・社会人特別選抜試験受験者と異なる英語の試験を実施する。ただし、希望者には、一般・社会人特別選抜試験受験者と同様の試験を受験できる。

7 合格発表

前 期	令和 5 年 9 月 15 日 (金) 午前 10 時	医学研究科ホームページに掲載するとともに、受験者全員に合否を郵送にて通知する。
後 期	令和 6 年 2 月 16 日 (金) 午前 10 時	

※ 合格者には、合格通知と併せて入学手続書類を郵送する。

8 入学資格

医(歯)学部医(歯)学科出身者で個別最適医療系専攻の志願者は、医(歯科医)師免許取得者又は、令和 6 年 2 月の医(歯科医)師国家試験の合格を条件とする。

9 入学手続(入学金、学納金及び入学手続書類締切)

前 期	令和 5 年 9 月 29 日 (金) 必着	所定の期日までに入学手続きを完了しない場合は、入学許可を取り消す。
後 期	令和 6 年 2 月 22 日 (木) 必着	

10 入学金及び学納金

入 学 金	250,000 円	
授 業 料 前期分	240,000 円	(※年額 480,000 円)
実 験 実 習 料 前期分	60,000 円	(※年額 120,000 円)

※ 初期臨床研修医については授業料及び実験実習料を半額免除することができる。

※ 入学手続完了者がやむをえない理由で入学を辞退する場合、令和 6 年 2 月 22 日 (木) 午後 5 時まで (必着) に入学辞退届 (書式は任意) を提出した者に限り、入学手続時納入金から入学金を差し引いた金額を返還する。上記期日までに入学辞退届がない場合は、既納金は一切返還しない。

11 久留米大学大学院医学研究科奨学金制度

大学独自の奨学金制度（貸与月額 120,000 円）がある。

12 外国人留学生学納金減免制度

外国人留学生の希望者は選考により、学納金（入学金・授業料）を若干名、全額免除または半額免除する。

13 注意事項

- 1) 受験票は、**試験当日に交付するので、入学検定料の領収書交付をもって出願手続き完了**とする。
- 2) 出願手続き後の志望専攻の変更は認めない。
- 3) 一般選抜試験及び社会人特別選抜試験の出願資格の（3）（ニ）、外国人留学生特別選抜試験の出願資格（4）に該当する合格者のうち、「令和 6 年 3 月 31 日で研究歴が 2 年となる者」については、入学後直ちに「研究期間証明書」を提出すること。
- 4) 入学手続きに際し、卒業見込みの者は卒業後、直ちに「卒業証明書」、「医療系・看護系・福祉系免許証の写」を提出のこと。
- 5) 大学院医学研究科入試問題の過去問題は、教育 1 号館 2 階ホール内（医学部事務部教務課前）にて、平日 9:00～16:00（但し、土・日・祝祭日、本学休業日を除く）で閲覧のみ可能（コピーは不可）である。

個人情報の取り扱いについて

- * 本学では「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努め、安全管理のために必要な措置を講じております。
- * 出願及び入学手続きにあたって提供頂いた個人情報は、入学試験の実施、合格発表、入学手続き、入学後の履修関係、教務・学籍関係、及び学生生活関係に必要な業務において使用させていただきます。
- * 本学が取得した個人情報は、本人の承諾なしに第三者へ開示・提供することはありません。

専攻内容及び指導教授

専攻	専攻科目	指導教授	主な研究分野	
生理系	解剖学 肉眼・臨床解剖分野	解剖学 (肉眼・臨床解剖部門) 渡部 功一	肉眼解剖学的研究 臨床解剖学的研究 (低侵襲治療法の開発) ・心臓、血管系の形態 ・運動器の機能解剖学 (下肢など) ・胸腹部内臓の解剖学 ・頭頸部顔面領域の解剖学 ・移植組織 (皮弁など) の血行形態の解析	
	解剖学 顕微解剖・ 生体形成分野	解剖学 (顕微解剖・生体形成部門) 嶋 雄一	・視床下部-下垂体-性腺軸の発達を制御する転写制御機構の解明 ・性行動を制御する視床下部ニューロンの新規亜集団の同定 ・脾臓の組織構築において核内受容体NR5A1が果たす役割の解明	
	解剖学 顕微解剖・ 生体形成分野	先端イメージング研究センター 太田 啓介	・FIB-SEM tomographyなど電顕三次元解析技術を用いた細胞性ネットワークの可視化とその生理学的意義 ・ミトコンドリア形態と組織生理の関係 ・3D光電子相関顕微鏡法 (CLEM) によるミトコンドリアの空間的動的構造解析	
	生理学 脳機能分野	生理学 (脳・神経機能部門) 後任教授		
	生理学 統合自律機能分野	生理学 (統合自律機能部門) ○ 鷹野 誠	分子細胞生理学・神経科学 ・心臓ペースメーカー機能と不整脈に関する分子細胞生理学的研究 (とくにペースメーカーチャネル発現のリモデリング) ・ペースメーカーチャネル発現ニューロンの神経科学的研究 (光遺伝学、スライスパッチ法、行動解析など)	
	医化学		医化学 山本 健	・ゲノムおよびエピゲノム解析による代謝性疾患、がん、自己免疫病の病因解明 ・単一遺伝病の家系分析と責任遺伝子の同定 ・脂質代謝のゲノミクス研究
			自然科学・化学 東元 祐一郎	・タンパク質の翻訳後修飾による機能調節機構の解明 ・核酸アプタマーの作成と疾患モデル動物への応用 ・質量分析法による疾患プロテオミクス
	薬理学		薬理学 西 昭徳	・ドーパミンにより活性化される細胞内情報伝達系、特にリン酸化シグナルの研究 ・ドーパミン神経の変性と再生に関する研究 ・Microdialysis 法を用いた神経伝達物質放出に関する研究 ・薬物依存の神経化学的及び行動薬理学的研究
分子生命科学		(分子生命科学研究所・遺伝情報部門) ○ 児島 将康	・新規生理活性ペプチドの探索 ・ペプチドホルモンの分子生物学 ・ペプチドホルモンの機能解析 ・中枢性摂食調整機構の解明	
		(分子生命科学研究所・細胞工学部門) 齋藤 成昭	・栄養環境変化に応答する細胞増殖制御機構の解明 ・細胞分裂期における正確な染色体分配を保障する分子機構の解明	

専攻内容及び指導教授

専攻	専攻科目	指導教授	主な研究分野
病理系	病理学	病理学 ○ 矢野 博久	<ul style="list-style-type: none"> ・肝癌の分子病理学（特に、肝癌の組織発生、がん幹細胞、診断・治療に関する組織バイオマーカーに関する研究など） ・肝癌の実験病理学（特に、新規薬物送達システムを使用した新規分子標的治療の開発に関する研究など）
		病理学 ○ 大島 孝一	<ul style="list-style-type: none"> ・悪性リンパ腫の病理学的診断 ・悪性リンパ腫の分子病理学（特に、免疫染色、遺伝子に関する研究など）
		病院病理部 秋葉 純	人体病理、腫瘍の組織発生
	感染医学 基礎感染医学分野	感染医学 (基礎感染医学部門) 小椋 義俊	<ul style="list-style-type: none"> ・細菌学 ・ゲノム微生物学 ・病原性進化学 ・細菌に対する感染防衛機構 ・細菌感染症の新規治療薬の開発
	感染制御学	感染制御学 渡邊 浩	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症 ・院内感染対策 ・熱帯医学 ・旅行医学
	感染医学 真核微生物学分野	感染医学 (真核微生物学部門) 井上 雅広	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトのアフリカ睡眠病や家畜のナガナ病の原因となるトリパノソーマ原虫の駆除を可能にする分子標的薬の開発 ・トリパノソーマ分子シャペロンのユニークな機能を利用した治療薬のスクリーニング 1) トリパノソーマの14-3-3 (Tb14-3-3)分子の機能解析 2) Tb14-3-3に結合するキナーゼAKB-1の機能解析
	免疫学	免疫学 溝口 充志	<ul style="list-style-type: none"> ・腸管免疫 ・炎症性腸疾患の治療戦略開発 ・上皮再生免疫 ・臓器特異的免疫
		免疫学 溝口 恵美子	<ul style="list-style-type: none"> ・マウスモデルおよびヒト臨床検体を用いた、炎症性腸疾患 (IBD) 発症とその病因における腸管細胞上皮細胞の機能的な機序解明 ・アレルギー疾患、慢性炎症性疾患、および感染症における基礎と臨床の橋渡し研究(トランスレーショナルリサーチ)への取り組み

専攻内容及び指導教授

専攻	専攻科目	指導教授	主な研究分野
社会医学系	環境医学	環境医学 石竹 達也	<ul style="list-style-type: none"> ・産業医学 1)高圧環境(潜水)の健康影響 2)振動障害の予防と健康管理 3)医療・福祉従事者の健康管理 ・環境医学 1)電磁波による生体への健康影響 2)室内空気汚染,シックハウス症候群 ・地域保健 1)HIA(Health Impact Assessment)の適用研究
	公衆衛生学	公衆衛生学 谷原 真一	<ul style="list-style-type: none"> ・医療政策 ・医療経済 ・疫学 ・医療リアルワールドデータ分析
	健康科学	人間健康学部・スポーツ医科学科 吉田 典子	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の変化と生体機能・疾病予防に関する臨床的研究(身体活動や栄養摂取が血管内皮機能および生体内の酸化ストレスに及ぼす影響) ・スポーツ医学に関する研究
	法医学・人類遺伝学	法医学 神田 芳郎	<ul style="list-style-type: none"> ・形態形成に関与する遺伝子多型解析 ・ハプトグロビン遺伝子欠失の診断法の開発とその臨床応用 ・自然選択を受けている遺伝子群の多型解析
	バイオ統計学	バイオ統計センター 古川 恭治	<ul style="list-style-type: none"> ・生存時間データの解析手法 ・環境疫学データの統計モデリングとリスク解析 ・ベイジ統計モデル
		バイオ統計センター 室谷 健太	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な臨床試験デザイン開発・研究 ・診断法比較のための統計解析法の開発・研究 ・実践的なバイオ統計コンサルテーション
	看護学	看護学科 崎浜 智子	<ul style="list-style-type: none"> ・医療関連感染症の予防と管理に関する実装研究 ・医療関連感染症のリスク因子の探求に関する研究 ・リーダーシップとマネジメントに関する研究 ・患者安全に関する研究
		看護学科 古村 美津代	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の早期対応・支援および支援体制に関する研究 ・多職種連携・チームアプローチによる高齢者支援に関する研究 ・老年看護学および老年看護教育
		看護学科 益守 かづき	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの看護に関する研究 ・病気を抱える子どもの家族への看護に関する研究 ・小児看護教育に関する研究
		看護学科 ○原 頼子	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者・家族の QOL に関する研究 ・糖尿病患者・家族の QOL 測定のための尺度開発 ・地域連携ケアシステムに関する研究
		看護学科 田中 佳代	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病を持つ女性のウイメンズヘルスクエアに関する研究 ・糖代謝異常妊娠のケアに関する研究 ・セクシュアリティに関する研究 ・助産学に関する研究
		看護学科 重松 由佳子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携における看護職の役割に関する研究 ・看護職のパートナーシップ構築に関する研究 ・保健師の保健活動技術及び教育に関する研究
		看護学科 嵯峨 堅	<ul style="list-style-type: none"> ・人体構造の基本と看護学領域への応用研究 ・人体解剖学、肉眼解剖学、組織学、形態形成、比較解剖学 ・骨形態形成、血管形態形成、末梢神経形態形成、内分泌形態形成 ・特に知覚神経分布と痛み発生のメカニズムの解析 ・研究・教育標本作製(ヒト、各種動物) ・解剖学教育、教育教材開発、プレゼンテーション技法研究
看護学科 加悦 美恵		<ul style="list-style-type: none"> ・看護教育と管理および看護技術や看護倫理に関する研習口 	

専攻内容及び指導教授

専攻	専攻科目	指導教授	主な研究分野
個別最適医療系	先端癌治療学	病理学 ○ 矢野 博久	<ul style="list-style-type: none"> ・肝癌の分子病理学（特に、肝癌の組織発生、がん幹細胞、診断・治療に関する組織バイオマーカーに関する研究など） ・肝癌の実験病理学（特に、新規薬物送達システムを使用した新規分子標的治療の開発に関する研究など）
		病理学 ○ 大島 孝一	<ul style="list-style-type: none"> ・悪性リンパ腫の病理学的診断 ・悪性リンパ腫の分子病理学（特に、免疫染色、遺伝子に関する研究など）
		免疫学 溝口 恵美子	<ul style="list-style-type: none"> ・炎症性腸疾患（IBD）およびIBD関連性大腸癌の発症の過程における腸管上皮細胞と腸内細菌叢（特に潜在的に病因に関わるような細菌群）との相互作用 ・キチン質と結合能を持つ哺乳類キチナーゼに属するchitinase 3-like 1（CHI3L1/YKL-40）の発癌性への機序解明
		内科学（血液・腫瘍内科部門） 長藤 宏司	<ul style="list-style-type: none"> ・造血器腫瘍細胞の増殖機構の解析 ・血栓症発症に関する血液凝固血小板異常の解析
		内科学（消化器内科部門） 川口 巧	<ul style="list-style-type: none"> ・脂肪肝・代謝異常とがん ・肝がん患者に対する栄養・運動療法 ・消化器がんの臓器相関
		内科学（消化器内科部門） 古賀 浩徳	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器癌（肝癌，膵癌）の幹細胞 ・Wnt シグナル ・ウイルス肝炎の病態と治療 ・肝細胞の再生 ・肝細胞癌に対する薬物療法
		内科学（消化器内科部門） 黒松 亮子	<ul style="list-style-type: none"> ・腹部超音波検査の基礎と臨床 ・肝癌の早期診断・治療
		外科学 藤田 文彦	<ul style="list-style-type: none"> ・消化管癌の診断と治療 ・後腹膜腫瘍の診断と治療 ・大腸癌の集学的治療 ・消化器疾患の外科治療
		外科学 唐 宇飛	<ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍外科学 ・乳腺腫瘍学 ・腫瘍免疫学
		脳神経外科学 中村 英夫	<ul style="list-style-type: none"> ・脳神経外科領域における機能的解剖学 ・脳腫瘍の分子生物学 ・がん生物学 ・脳腫瘍病理学
		産婦人科学 津田 尚武	<ul style="list-style-type: none"> ・婦人科悪性腫瘍の診断学 ・婦人科悪性腫瘍の病態生理 ・婦人科悪性腫瘍の集学的治療
		泌尿器科学 井川 掌	<ul style="list-style-type: none"> ・泌尿器科腫瘍学 ・泌尿器科腫瘍の集学的治療・低侵襲治療
	悪性腫瘍専門医養成ユニット	化学薬物療法 専門医養成 コース	外科学 唐 宇飛
放射線療法 専門医養成 コース		放射線腫瘍センター 淡河 恵津世	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線腫瘍学一般 ・放射線療法の技術的学習 ・実臨床における放射線療法への応用
希少がん診療 養成コース		整形外科 平岡 弘二	<ul style="list-style-type: none"> ・骨軟部腫瘍の基礎と臨床 ・転移性骨腫瘍の基礎と臨床 ・筋骨格系のリハビリテーション学 ・術後筋骨格系機能改善の研究

専攻内容及び指導教授

専攻	専攻科目	指導教授	主な研究分野
個別最適医療系	心血管先端医療学	内科学（心臓・血管内科部門） 福本 義弘	<ul style="list-style-type: none"> ・動脈硬化、心不全、不整脈、大動脈疾患、肺高血圧の病態と治療 ・血管新生 ・心血管病の疫学 ・腫瘍循環器病学
		外科学 田山 栄基	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓血管外科学（後天性心臓病の病態と治療、大動脈疾患の病態と治療） ・人工心臓（補助循環装置の研究開発と臨床応用） ・人工弁の特性に関する研究と臨床評価
		循環器病研究所 青木 浩樹	<ul style="list-style-type: none"> ・心血管系の細胞内情報伝達および細胞間情報伝達 ・大動脈疾患の分子細胞生物学
		循環器内科(医療センター) 甲斐 久史	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓病態学 ・血管病態学 ・臨床循環器内科学 ・高血圧学 ・医療安全管理学
		小児科学 須田 憲治	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎病血管炎 ・胎児疾患 ・先天性心疾患のカテーテル治療
		総合健診センター 松岡 秀洋	<ul style="list-style-type: none"> ・循環調節 ・高血圧症
		循環器病センター 田原 宣広	<ul style="list-style-type: none"> ・血管生物学 ・心血管病の炎症病態 ・動脈硬化、肺高血圧症、心筋症、血管炎の病態と治療
		医療安全管理部 横山 晋二	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理学 ・循環器内科学 ・冠動脈インターベンション
	高次脳疾患学	小児科学 ○山下 裕史朗	<ul style="list-style-type: none"> ・小児神経学・発達障害(注意欠如多動症(ADHD), 限局性学習症, 自閉スペクトラム症, Rett 症候群) ・ADHDのサマートリートメントプログラム(行動療法)
		神経精神医学 小曾根 基裕	<ul style="list-style-type: none"> ・精神医学 ・精神生理学 ・睡眠学
		高次脳疾患研究所 小路 純央	<ul style="list-style-type: none"> ・精神生理学(精神神経疾患及び高次脳機能障害における探索眼球運動、事象関連電位、functional magnetic resonance imaging: fMRI、近赤外線スペクトロスコピー Near-infrared Spectroscopy: NIRSを用いた研究) ・老年精神医学(予防、診断・治療・ケア、地域連携)
		脳神経外科学 森岡 基浩	<ul style="list-style-type: none"> ・脳虚血性細胞障害の分子メカニズム ・神経再生 ・血管新生
		脳神経外科学 廣畑 優	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の基礎と臨床
		脳神経外科学 中村 英夫	<ul style="list-style-type: none"> ・脳神経外科領域における機能的解剖学 ・脳腫瘍の分子生物学 ・がん生物学 ・脳腫瘍病理学
		内科学（呼吸器・神経・膠原病内科部門） ○谷脇 考恭	<ul style="list-style-type: none"> ・パーキンソニズムにおける機能的MRI解析 ・呼吸困難の機能的脳画像
皮膚細胞生物学	皮膚科学 名嘉真 武國	<ul style="list-style-type: none"> ・好酸球関連皮膚疾患 	

専攻内容及び指導教授

専攻	専攻科目	指導教授	主な研究分野
個別最適医療系	先進医療対象疾患学	内科学（呼吸器・神経・膠原病内科部門） 星野 友昭	・呼吸器病学 ・肺がん
		内科学（呼吸器・神経・膠原病内科部門） 井田 弘明	・自己炎症症候群におけるiPS細胞を利用した病態解析
		内科学（呼吸器・神経・膠原病内科部門） ○ 谷脇 考恭	・パーキンソニズムにおける機能的MRI解析 ・呼吸困難の機能的脳画像
		内科学（呼吸器・神経・膠原病内科部門） 川山 智隆	・気道炎症の診断および評価 ・気道過敏性の診断および評価 ・気管支喘息とCOPDの病態解明および新規治療薬の開発に関する研究など
		リウマチ・膠原病センター （医療センター） 中島 宗敏	・関節リウマチの治療 ・リウマチ性疾患におけるMEFV遺伝子の関わり
		内科学（血液・腫瘍内科部門） 長藤 宏司	・造血器腫瘍細胞の増殖機構の解析 ・血栓症発症に関する血液凝固血小板異常の解析
		内科学（消化器内科部門） 川口 巧	・脂肪肝の病態と治療 ・肝硬変患者の栄養・運動療法 ・消化器疾患の臓器相関
		内科学（消化器内科部門） 古賀 浩徳	・消化器癌（肝癌, 膵癌）の幹細胞 ・Wnt シグナル ・ウイルス肝炎の病態と治療 ・肝細胞の再生 ・肝細胞癌に対する薬物療法
		内科学（消化器内科部門） 黒松 亮子	・腹部超音波検査の基礎と臨床 ・肝癌の早期診断・治療
		内科学（消化器内科部門） 岡部 義信	・消化器内視鏡（特に胆膵内視鏡）による診断と治療 ・膵臓がん・胆道がんの診断と治療 ・膵腫瘍・嚢胞性腫瘍の診断, 自己免疫性膵炎の診断
		消化器内科 （医療センター） 井出 達也	・ウイルス性肝炎 ・肝疾患の診断と治療
		内科学（内分泌代謝内科部門） 野村 政壽	・2型糖尿病の病態生理に基づく革新的治療法の研究開発 ・サルコペニアの分子メカニズムの解明と予防法の開発
		内科学（腎臓内科部門） 深水 圭	・急性・慢性腎障害、透析合併症の進展機序の解明と新規治療法開発 ・腎臓再生へ向けた最先端研究
		小児科学 西小森 隆太	・自己炎症症候群の原因遺伝子探索 ・自己炎症症候群の病態解明 ・自己炎症症候群の治療法開発
		保険診療管理部（小児科学） 牛島 高介	・保険診療 ・病院管理学 ・小児科学 ・小児栄養消化器肝臓病学
		放射線医学 ○ 安 陸 等 思	・放射線診断学（中枢神経の画像診断） ・画像下治療（インターベンショナルラジオロジー：脳血管内治療学, 頭頸部と脊椎の治療） ・3次元画像解析（3D-プリンターによるモデル作成）

専攻内容及び指導教授

専攻	専攻科目	指導教授	主な研究分野
個別最適医療系	先進医療対象疾患学	放射線医学 藤本 公則	・画像診断学全般 (特に呼吸器・縦隔疾患・肝疾患の画像診断)
		放射線医学 内山 雄介	・放射線診断学 (画像診断学一般、神経放射線領域、頭頸部領域)
		画像診断センター(放射線医学) ○ 田中 法瑞	頭頸部癌に対する超選択的動注療法血管腫・血管奇形の診断と血管内治療圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術
		放射線腫瘍センター 淡河 恵津世	・放射線腫瘍学一般 ・放射線療法の技術的学習 ・実臨床における放射線療法の応用
		外科学 藤田 文彦	・消化管癌の診断と治療 ・後腹膜腫瘍の診断と治療 ・大腸癌の集学的治療 ・消化器疾患の外科治療
		外科学 久下 亨	・消化器外科 (肝胆膵) ・腫瘍外科 ・集学治療 ・外科病理
		外科学 光岡 正浩	・呼吸器外科学 ・肺癌の外科治療 ・呼吸器インターベンション
		外科学 唐 宇飛	・腫瘍外科学 ・乳腺腫瘍学 ・腫瘍免疫学
		外科学(小児外科) 加治 建	・小児外科 (消化器、呼吸器、泌尿生殖器) ・新生児外科学 ・小児内視鏡外科学 ・外科代謝・栄養学 ・外科教育学
		整形外科 平岡 弘二	・骨軟部腫瘍の基礎と臨床 ・転移性骨腫瘍の基礎と臨床 ・筋骨格系のリハビリテーション学 ・術後筋骨格系機能改善の研究
整形外科・関節外科センター (医療センター) 大川 孝浩	・骨・関節機能再建を目的とする人工関節手術および関節 ・温存手術を中心とした研究と臨床		

専攻内容及び指導教授

専攻	専攻科目	指導教授	主な研究分野
個別最適医療系	先進医療対象疾患学	整形外科 佐藤 公昭	・脊椎・脊髄疾患
		大学病院リハビリテーション部 松瀬 博夫	・運動療法による健康増進 ・慢性疼痛に対する運動療法 ・電気刺激療法 ・運動器のバイオメカニクス ・不活動による筋骨格系の萎縮と予防法に関する研究 ・筋骨連関と運動に関する研究 ・宇宙空間での筋骨格機能の維持、運動法に関する研究
		眼科学 吉田 茂生	・眼内増殖組織のゲノムワイド遺伝子発現解析に基づいた革新的眼内増殖抑制治療戦略の体系的構築 ・糖尿病網膜症・網膜静脈閉塞症や加齢黄斑変性に対する個別化分子標的治療の開発 ・硝子体手術の奏功機序解明と治療への応用 ・眼疾患のゲノム解析と迅速診断システムの構築 ・眼内血管新生の分子機構の解明
		眼科学 門田 遊	・角膜移植 ・羊膜移植 ・前眼部疾患
		産婦人科学 津田 尚武	・婦人科悪性腫瘍における低侵襲治療法
		産婦人科学 吉里 俊幸	・周産期医学、胎児医学 ・超音波診断学 ・出生前診断学
		泌尿器科学 井川 掌	・泌尿器科腫瘍学（特に、前立腺癌、腎癌、尿路上皮癌） ・泌尿器内分泌学（特に、副腎疾患） ・尿路結石症の基礎と臨床
		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 梅野 博仁	・音声外科学・嚥下医学・喉頭科学における基礎と臨床 ・頭頸部腫瘍学における基礎と臨床
		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 千年 俊一	・頭頸部外科学 ・頭頸部癌の機能温存治療 ・低侵襲・機能改善手術法の開発
		麻酔学 平木 照之	・神経麻酔 ・手術医学
		形成外科・顎顔面外科学 ○ 清川 兼輔	・頭蓋顎顔面外科 ・頭頸部、頭蓋底再建外科 ・組織移植の研究 ・再生医学の研究と臨床
		形成外科・顎顔面外科学 力丸 英明	・美容外科 ・頭蓋顎顔面外科 ・再生医療の研究と臨床 ・抗加齢医療
		救急医学 高須 修	・過大侵襲と生体反応 ・重症患者における臓器障害発症メカニズム ・敗血症の病態生理 ・重症敗血症に伴う臓器不全
		高度救命救急センター 山下 典雄	・救急医学(主に外傷学, 災害医療, 病院前救急医学)
		歯科口腔医療センター 楠川 仁悟	・口腔インプラント ・顎変形症の診療と治療 ・口腔組織の再生 ・口腔腫瘍の臨床病理

参考 1.○の指導教授は令和5年度退職予定である。